

## 自然を歩く 15

## 【タタラと近世俳人】

島根県の斐伊川の上流に菅谷タタラが稼働していたのはもう大分昔のことである。そのタタラの最後の村下（ムラゲといい、タタラ場の工場長）・堀江要四郎さんに話を聞いたことがある。もう50年も前のことである。多くの人が働く山内の奥には金屋子神を祀る小祠があり背後に大きなカツラの木があった。カツラの木に白鳥が降り立ったところにいい砂鉄が採れるという伝承がある。タタラの最初の火入れは神聖なので火鑽白（ヒノキを使う）と火鑽杵で採錐法によって点火する。実際に試したことがあるが私にはできなかつた。火鑽杵には山にあるムラサキシキブの幹が硬いので使った。菅谷タタラではコメゴメと言っていたが信州・木曾谷ではヒモミの名があるので、各地で使っていた可能性がある。タタラは山奥にあるが、集落の出入り口には木戸があったそうだ。タタラは人里遠く離れた山奥にあり、さすがに近世俳人でもタタラ製鉄を詠んだ人はいないのではないか。もしいたとすれば知りたいものである。